



令和元年 11 月 6 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 s M e d i o  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 岩 本 定 則  
(コード番号：3913 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 企 画 室 長 北 埜 弘 剛  
(TEL. 03-6262-8660)

### 令和元年 12 月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 31 年 2 月 13 日に公表しました令和元年 12 月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

#### 1. 令和元年 12 月期通期連結業績予想数値の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,063	△35	△36	△52	△27.73
今回修正予想 (B)	889	△79	△78	△84	△44.12
増減額 (B)-(A)	△173	△43	△42	△31	—
増減率 (%)	△16.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 30 年 12 月期)	985	△107	△107	△110	△57.92

(注) 令和元年 12 月期の通期連結業績予想の 1 株当たり当期純利益は、平成 31 年 1 月から令和元年 9 月までの期中平均株式数 1,913,073 株を用いて算定しております。

#### 2. 業績予想修正の理由

(連結売上高)

令和元年 9 月までの 9 ヶ月間の連結売上高が 661 百万円となり、計画 (777 百万円) を大きく下回りました。収益区分別では、ロイヤリティ収入が 76 百万円、開発収入が 39 百万円、それぞれ計画を下回りました。

ロイヤリティ収入は、第 3 四半期累計期間 (1 - 9 月) までの下振れ額を、第 4 四半期会計

期間（10－12月）で取り戻すことは困難な水準となり、また、第4四半期会計期間（10－12月）のロイヤリティ収入は145百万円（当初計画154百万円）と見込まれ、第4四半期会計期間（10－12月）も当初計画を下回ることが見込まれます。

第4四半期会計期間（10－12月）でのロイヤリティ収入が当初計画を下回った主な要因は、顧客が販売するTVに関して、当社のtourbillon4（新4K衛星放送対応組込みブラウザ）を搭載していない旧製品（以下、「未搭載製品」という）と当社のtourbillon4を搭載した新製品とが市場で混在して販売されている状況が続いているため、当社のtourbillon4を搭載した新製品の出荷数が計画を下回ったこととなります。

なお、顧客の販売する未搭載製品は、最新モデルではなくなっているため、今後、徐々に市場からなくなる見込みであります。

開発収入は、第4四半期会計期間（10－12月）に野心的な目標（当初計画104百万円）を設定しておりましたが、失注案件もあり、現時点では、71百万円に留まる見込みとなりました。開発収入に関しても、第3四半期累計期間（1－9月）までの下振れ額を取り戻すことはできない見込みであります。

上記の影響を勘案し、令和元年12月期の通期連結売上高は、889百万円を見込んでいます。

（連結営業損益および連結経常損益）

連結売上高の減少による影響が大きく、販管費の節減では補いきれず、連結営業損益は79百万円の損失、連結経常損益は78百万円の損失となる見込みであります。

（親会社株主に帰属する当期純利益）

連結営業利益と同じ要因により、親会社株主に帰属する当期純利益は、84百万円の損失となる見込みであります。

（為替前提）

第4四半期連結会計期間（10－12月期）における為替水準は、直近の為替水準を反映し、下表のように想定しております。

	米ドル	中国・人民元
第4四半期連結会計期間	108.00円(110.00円)	15.50円(16.50円)

※（ ）内は、変更前の想定為替水準。

（注）上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき算出しており、実際の業績は今後の様々な要因により異なる場合があります。

以 上